

事業所における自己評価結果（公表）

対象職員6名 回収6名
回収率100%

公表：令和6年3月1日

事業所名 きらり玉島

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	室内はそれほど広くはないが、それぞれすることによってブースや部屋を分けているので、子どももひとつのところに集まらず、分散されている。エリアに分けた支援を実施している。活動ごとに部屋を変えて子どもたちが十分に動ける環境を確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	5	1	・職員の体調不良などの急なお休みが出た時には、配置が少なくなるが、職員間で声をかけながら業務にあたっている。 ・送迎がある時は少し足りないかと思うことがあるが、概ね足りていると思う。 ・年齢によって個別に対応が必要な時があっても、体制により、対応できない時がある。	・職員配置は適正である。今後も職員間で密に報告・連絡・相談し合いながら支援にあたっていく必要がある。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2	・階段が急過ぎるところが危険であり、バリアフリーにはなっていない。 ・階段が急だが、活動時には必ず職員が付き添うようにしている。 ・構造化されている。建物の老朽化もあるのか、移転が必要でありそう。 ・部屋の場所は子どもたちにとって、分かりやすい様に工夫している。	必要に応じバリアフリー化も検討する。 (事業所移転も視野に入れる) 階段で移動をする際には、今後も職員が付き添う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	・毎日清掃したり、各活動によってエリアを分けている点 ・建物が、古いため、床面には、傷があるが、清掃は、マニュアルに沿ってきちんと実施している。 ・活動ごとに部屋を分けている。毎回お昼、夕方に掃除をして清潔に保つことを心がけている。	定期的に環境を見直しながら、心地よく過ごせる環境を整えていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	0	・目標面談を正規職員、嘱託職員全員定期的に行っている。 ・毎年実施している事業所評価を元に、職員の意見も入れながら、実施している。	今後も、職員との面談を通して、業務の見直し、改善を行いながら進めていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	・保護者の方もしっかりとアンケートを記載してくださっているので、それを参考に毎年必要事項を見直している。 ・アンケート結果を参考に事業所としての方向性を見直している。	・アンケート結果を参考に業務の見直しを継続して実施していく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	・毎年、市と法人のホームページに評価の結果を公表している。	・職員間でも評価結果を共有して日々の業務に活かす必要がある。

普	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	0	定期的に、第三者評価を実施している。評価結果を参考に、必要な項目は見直しを職員間で実施している。第三者評価は昨年度受審している。	なぜ外部評価を行っているか等も踏まえて、職員に周知をしていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修や法人内研修、外部研修等に職員が積極的に参加をしている。 ・1ヶ月に1回、事業所内研修を担当が持ち回りで行なっている。 ・毎月事業所内研修を実施している。自分でテーマを選んで実施する機会もあり、日々の支援について考える機会になった。 ・参加出来なかった場合には、zoomを活用して実施している。 ・研修を通して、職員間で互いに意見交換しあう機会を設けている。 	・今後も事業所の質の向上を目指して、利用児さん、ご家族、地域の方に満足してもらえる様に、研修の機会を確保していく必要がある。学ぶ視点を大事にしていきたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の終礼で共有したことを支援計画を立てる際に取り入れている。 ・事前に保護者に、要望書を渡して、記入して頂いた物を元に面談し、お子様の発達や、課題に応じたものかをすり合わせた上で、児童発達支援管理責任者が、支援計画を作成している。 ・アセスメントシートを参考に、利用児、保護者のニーズにあった計画書を作成している。 	・今後も利用児さん、家族のニーズを踏まえた上での計画書の立案に努めていきたい。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・医師の診断書や、発達検査結果、事業所で実施した検査により、状況把握している。 	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画書内には、本人支援、家族支援、地域支援の3本柱で利用児、家族、地域の状況を踏まえた必要項目を入れている。 	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、支援計画に落とし込んだ課題結果について、保護者と共有している。 ・個別支援計画書の内容に関して課題を行い、日々記録をとっている。 	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で時間を調整をしながら、チームで立案している。 ・内容について困った際は、上司に相談をしている。 	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れが固定化される傾向がある。 ・上司に相談したり、提案した内容に助言をいただいたりして活動を実施している。 	・活動については、利用児さんの状況に合わせて工夫をして考えていく必要がある。固定化することなく、職員間でも意見を出し合いながら検討をしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、個別課題、小集団での活動を組み合わせて、活動を実施している。 	
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や朝礼ノートで周知しているから毎朝朝礼で確認をしている。 ・毎日朝礼の中で共有している。 ・職員の役割を明記したボードにより、誰もが個々の役割が分かった上での支援が行なわれている。 		

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・終礼や終礼ノートで情報を共有している点 ・毎日終礼をして共有している。支援について毎日振り返ることはとても大切だと思う。 ・利用児のことだけではなく、家族、所属園等についても特記を周知している。 	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の子どもの様子などを連絡帳に記載し、職員も連絡帳を見て確認している。 ・わからない部分は職員間で質問をし合いながら、子どもの様子を共有し、改善につなげている。 	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に、個別支援計画書は見直しを実施している。必要であれば、変更をして保護者と共有をしている。 	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者を基に、職員が参加している。 	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的実施される会議等に参加し、情報共有している。 ・地区の母子保健連絡会には毎年参加している。地域の関係者と情報共有する機会を設けている。 	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	非該当			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	非該当			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が生じた際は訪問したり、電話連絡を取り合ったりして情報を共有している点。 ・昨年度末には利用児の就学先と情報を共有する機会を設定した児もいる。 ・園児状況表を作成をして、支援内容を共有する等して引き継ぎを実施している。 	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・就学に関しては、小学校側と連携を取り、会議を設ける等して利用児の情報を伝えている。 	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に法人内で研修を行っている。 ・他の事業所とも連携をしている。 	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月に2回、法人内の保育園との交流の機会を設けている。 ・未就園児を対象に法人内の保育園との交流を実施している。就園を見据え、実施している。 	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	1	子ども部会に参加している。	分からないが1名。自立支援協議会の内容なども今後は周知をしていく必要がある。

保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の利用時から保護者と積極的にコミュニケーションをはかり、相談しやすい関係づくりを心がけている。 ・引き継ぎや連絡帳でのやり取りを主に実施して共通理解を図っている。 ・ケアラボのアイテムを利用して、直ぐに情報が保護者に届き、待たせることなく疑問や課題についての共有が図られている。 	職員間でも、保護者から聞き取りした内容を終礼等で振り返り、共有をしていく。また、その日に不在な職員でも分かる様に、紙面でも残し、口頭でも共有していく様にする。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニングやサポートブックを書く会を実施している。 ・曜日や時間帯により、参加者の制限が有る。就労している方の参加出来る時間帯も含めて、今後は検討していく必要がある。 	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に書面を介して対面をして保護者に説明を実施している。 	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに沿って保護者に説明を丁寧に行い、同意を得ている。 	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要であれば、保護者と日程調節をして、懇談を行なっている。 ・日々の引き継ぎや連絡帳でのやり取りで、家庭、園と共有をしている。 ・引き継ぎ時に保護者からの相談に応じて、必要な助言をしている。 	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・茶話会などを開催し、保護者同士での交流の場を設けている。 ・保護者茶話会と定期的に実施しており、保護者同士の繋がりを増やしている。 ・父親の会は今後実施したいと考えている。 ・地域の中で保護者同士が連携出来る場を作っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、座談会、勉強会などを通して母親だけが参加することが多い状況である。今後は父親も参加出来る会も作っていき、父親同士の繋がりも作っていかれたらと思う。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに相談を応じている。また職員間でも即座に共有をしている。 ・電話、連絡帳、面談、ケアラボなど様々なものを介して相談出来る体制を整えている。 	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・通信やお知らせを掲示したり、ケアラボで発信したりしている。 ・月に一度おたよりを発信している。 	
38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやSNS等に写真を掲載する際、保護者にその都度確認をとっている。 ・個人ファイルは、鍵のかかる書庫で保管している。所外への持ち出しも禁止されている。 		

	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	・利用児さん、家族の方に分かりやすい形態で情報を伝えている。 個別に懇談が必要な方は、時間を確保して定期的に話を聞き取りしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	・ボランティアさんや、実習生の受け入れを積極的に実施。 ・行事の際には、ボランティアさんと呼んだり、卒園児をボランティアとして招待したりしている。	・今年度は新規のボランティアさんの受け入れ、実習生の受け入れを積極的に実施した。地域の方との繋がりは薄い状況である為、今後は地域の方を巻き込んだ運営も実施していきたいと考えている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	・定期的に避難訓練を行っており、気づき、反省を職員間で共有。 ・マニュアルを定期的に見直し、簡易マニュアルを職員が目につく場所に掲示している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	・毎月実施している。満遍なくどの曜日に来られるお子さんにも訓練を実施している。 ・警察署の方が来られて、不審者訓練を実施している。 ・地震、火災など様々な状況を想定した訓練を実施。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	・登園時に変わりがないか保護者に確認を実施している。 ・基本情報に、服薬などは記載している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	・必要なお子さんは医師の指示書をもっている。 ・おやつ時には、アレルギー児は職員間でチェックを行なっている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	・月に1回職員会議の中で、事故、ヒヤリハット報告を行い、職員間で周知している。 ・毎月、事例を検証し、原因究明に努めている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	・虐待防止の研修を実施している。 ・気付いた点などは終礼で共有をしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2	・身体拘束については、契約時に保護者に説明を実施している。	・身体拘束の規定等についても、職員間で共有をしていく必要がある。